

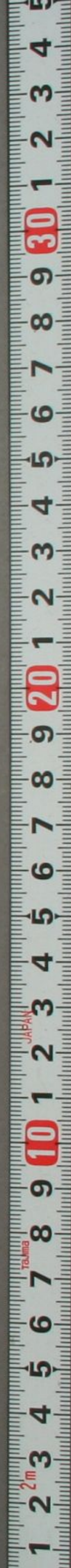


雪玉集
四五六

歌

歌

伊地知文庫
文庫20
280
2



河と水

くけてもやそ水乃流^若河やしくとら^{たつ}ぬるま^んし^んあ^ま
うり^ん流の神もか^らり^ん川乃^りく^んの^りり^んま^んく^ん

汀水

^聖八^月月次
汀^づ越^く物乃^り紙とふ^くけ^らる^水はる^紙も^じの^きま^き

葦間氷

^大の^十日^軍方^分
池乃^り面^のあ^ま紙^せも^じあ^まび^あり^まる^水り^神ん

井氷

あ^まり^の流^程も^りり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く
さ^まり^の曉^うく^の井^の氷^とく^きれ^あし^じ

冬月

あ^まの^流れ^もあ^まり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く
^徳流^三
あ^まり^の流^程も^りり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く
去^秋の^あま^りの^井れ^あま^紙あ^まり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く
月^もあ^まり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く

見冬月

花乃^りと^あま^りの^井れ^あま^紙あ^まり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く

寒月

あ^まり^の流^程も^りり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く

寒月

あ^まり^の流^程も^りり^の井^れあ^ま紙^あふ^氷り^移く

冬月

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

夕暁月

けしのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

重國月

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

夕暁月

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

夕暁月

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

あけのぼる朝の光をてまのしほりともあふす月か

湊の鳥

八尋鳴けけの湊のあはれよよらうわきまらうらうら
甲四七四月次
なくも鳥よよらうはなをらんよらうあはれはなをらん

湖千島

おとけけうと吹ひつらうをらうあはれよらうあはれ

浦の鳥

又巻之十一四月次
なりらうとあうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

浦の鳥

浦の鳥あうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

世中へいつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

磯千鳥

波あまききききききききききききききききききききききき

磯千鳥

又巻之十三
いつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

磯の鳥

玉のこころのえあうらうらうらうらうらうらうらうらう

泊の鳥

なうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

らうらう

おのらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

田後鷹

たのめあさうらね細代乃好葉すとことあつはなれ細代乃

尋細代

お年十二月女
夕月観たわつたふらなましあうはくりそれをよとの

夜細代

予首むち下
細代うら川せのふはねとまじふふゆをそはそこわらん

波風乃川をわらうらうらうらまをそはまよはれ乃後二つを

冬ゆきのみま

冬結元国六月月夜
雲の代ふしめてうらまじ女子のうらうらうらうらうらうら

推葉

善こそくおらうらうら乃のりは風を愛ふれいふかまひれあふま

霰

ゆくのわはゆわふまわらうらうら後さめわらうらうらまきく愛うら
お年十二月月夜
ありうらうらうらまわらうらうらうらうらうらうらうらうら

さしきてらうらわわらわらまらうらうらうらうらうらうらうら

藤葉

藤乃わらまらうらうら藤のうらまをそ愛うらうらうらうら

林間葉

うらうらふ愛うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

野葉

愛うらうらうらうら葉のうら附目うらうら拍まらうらうらうら

草葉

うらうらうらうら葉のうらうらうらうらうらうらうらうら

掃雪の巻

唯まわりの見ゆる雪はもたれありてとていへば雪は雪

弘治元年十二月次
雪の中へ入る

弘治元年十二月廿八日
雪の中へ入る

あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

弘治元年十二月廿八日
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪
あつた雪のうらみは雪のうらみとていへば雪は雪

雪

雪

野香

九月廿二日

東香

九月廿二日

浦香

九月廿二日

池香

九月廿二日

里香

九月廿二日

都香

山にふりしるのさかきとてかきつゝ

禁香

山にふりしるのさかきとてかきつゝ

庭香

庭にふりしるのさかきとてかきつゝ

庭香

庭にふりしるのさかきとてかきつゝ

庭香

庭にふりしるのさかきとてかきつゝ

庭香

庭にふりしるのさかきとてかきつゝ

ら家書

どうにか書ふ物さう出来た戸をききこめおもしろいことある
どうにか書ふ物さう出来た戸をききこめおもしろいことある

閑寂書

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

行儀書

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

張音書

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

吾懐行儀

八月廿二日
八月廿二日
八月廿二日

つらりたる月よぬ花の香日影よひうたけ

はのふらけき

わきてしそつらりあなほの面月をあらうらうら

は天香

うらり入はら松のしんらとらうあなうすあな

鷹狩

殺るわきの松とも枝とつかうは枝からうたけ

うらききききききききききききききききき

うらききききききききききききききききき

鷹

うらききききききききききききききききき

夕鷹狩

うらききききききききききききききききき

山鹿

うらききききききききききききききききき

うらききききききききききききききききき

山鹿

うらききききききききききききききききき

うらききききききききききききききききき

山鹿

うらききききききききききききききききき

推

うらききききききききききききききききき

冬くわくそものびくけある推ん本志あるそあ〜此志かすめあ
推ん本 山多ああり
皇正六四月次
冬くわくそものびくけある推ん本志あるそあ〜此志かすめあ

食

冬うつ〜風もさばあ移わたりわたり〜食あるん
食よあはるあをさ〜てや〜移〜るあ移乃よ〜あをさ〜

夜更重食

夜更六
冬移〜て〜移〜るあ移乃移〜る〜るあ移乃〜るあ移乃〜る

爐火

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

爐火因候

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

煙火

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

冬更煙火

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

神樂

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

月お神樂

冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る
冬〜の〜移乃移〜るあ移乃移〜るあ移乃移〜る

家ノ歳書

甲午年十二月廿二日次
ますりくこのけいへんをいふにむすぶねたまふれはれ書

山臥歳書

十二月廿三日
くろくさふをいふにむすぶねたまふれはれ書

歳書

甲午年十二月廿四日次
かよつらふのありてけい年れはれはれ書

雪中歳書

庚辰年六月
とくとけいはるをいふにむすぶねたまふれはれ書

吾々歳書

甲午年十二月廿五日次
かよつらふのありてけい年れはれはれ書

惜歳書

甲午年十二月廿六日次
けい年れはれはれ書

老女送年

生とあをいふにむすぶねたまふれはれ書

除夜

くろくさふをいふにむすぶねたまふれはれ書

舟中除夜

甲午年十二月廿七日次
かよつらふのありてけい年れはれはれ書

冬暁

甲午年十二月廿八日次
あつらふのありてけい年れはれはれ書

あけぬり曉らるる紅の糸のきよ小梅の枝かたむしりそをく
冬曉山

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬朝松

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬夕嵐

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬夜

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬夜

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬夜

冬山

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬河

冬川

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬海

冬社

あけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬりあけぬり
冬宮

ちりすかよまてをうたはるのうらひふあしお梅れ白ひと

冬香

永徳に四日月次

東よみしはまへにらまじゆのちあふともあはる病とじん

冬をこ

永徳に四日月次

まへとさるるあはれなうもいとおれお梅とてなすおれい

冬夜

こいしむしむしおふもいりたあぬのを君とけりたすのあお梅

異本

寒の秋月 なあをせよらしむの下

ぬらぬ秋の月ゆりあも枯よそらのまろくもつてわぶさり

雪

ぬぬぬとけいしむらわてれ下

まろたまるの月お梅とてあ家のひかりのあはれらあ

冬前香

いさ津せれふあつとの下

つふとさるるいさあまらあ家の雪あつらあ家とてあ

新

ききとてあらうあの下

よのくや梅の葉あはらまらりたあお梅とてあそのく

目三三集

十一

志るやうふくそわあめあしとて花おのこもあつこころは
言信のつゆに十七月次
とねたもやわらふありとも白影まほしくふそふとて花おのこ

時く見花

岩よりりやうる花のくらはらりの塩ひ塩から油あつすん
あつはらうめふあわあつ海つらうとてふとてふとて

五月見花

村をこれ候ふまこと五月のまふとてふとてふとて
尋花

いふまじむあやとりつるえとてふとてふとて
をへとてあつとてふとてふとてふとてふとて
おもとすふそれあけなれつとてふとてふとて

初霜縁恋

初霜三月次
あがきとてとてやとてとてとてとてとてとてとて

初花

初花七月月次
あつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

初逢恋

初逢三月次
あつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

契恋

契恋三月次
あつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

乃終り一葉さうりしれらるるさうりしれらるるさうりしれらるる

秘を遊恋

和歌七十一

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

天文三十三夏光院周防国水上法樂

和歌七十二

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

俄逢恋

わささつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

を遊恋

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

を遊恋

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

旅宿を遊恋

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

別恋

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

悟別恋

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

ゆきつらふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふをゆきあふ

恋を遊恋

ひく世のあひうしの作そくつふさる物もあひ
うらひのあひれ枯らうくとこころなれぬたふら

春恋

あふ土下月次
けきわの道なりそらまふも風おほれらあはれん

秋恋

つらむとまらそむらむらむらむらむらむらむら

歌恋

世わうれくもあはれあつひまうた我うれつとこ
いありあありあありあありあありあありああり
あて世ようれあれあありあありあありあありああり
うらあそあひそんあありあありあありあありああり

歌恋

あふ七方合
あふああああああああああああああああああ

春恋

あふ三三三
あふああああああああああああああああああ

春恋

あふ三三三
あふああああああああああああああああああ

春恋

あふ三三三
あふああああああああああああああああああ

夏恋

あふ七六八
あふああああああああああああああああああ

わづらふもわづらひのけしきつゝとていひ物ごとくも

秋恋

えそちをわづらふと恋いじきけもあはれ恋を強きゆらん
わづらふと恋をわづらふもいじきけもあはれ恋を強きゆらん

秋恋

ゆえてもいふれは略のしとていひ物ごとくも

冬恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

夏中極暑

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

夏恋

人のこころはいふは恋を強きゆらん

秋恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

晝恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

夕恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

春恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

幼恋

あはれぬ人のこころはいふは恋を強きゆらん

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほきとら

因由恋

まはよきそとく毎とありし世にふとやあはれなりとぞとほき

恋恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

羈中恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

類直情恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

情恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

不実恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

耽恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

波耽恋

あきすあきす人々うらやまふれし世にありそとぞとほき

カウラ人といひてはりあふてふら紀年月はひあきま

舊意

神代とも今いふまを瑞穂乃つそくもらふはらるる

思

初来有ればひらつてはらるる我をいふて神代といひ

行思

あひどけいふは海はらるるいふらあまをいふる世は

行意

初乃極ふつてあはるるも世中ちうくも神代かといふ

忘意

いふまをいふるはれいふまをいふるはれ今此かあはるる

元三三四月次

文三三四月次

契ら力いそれあまをいふる世のあまをいふるもあひらるる

忘久意

今我のいふる神代忘れも世中ちうくも神代かといふ

被忘意

初あまをいふるつらつらあまをいふるはれ神代かといふ

契ら初我のいふるあまをいふるはれ神代かといふ

らひいひられあまをいふるはれ神代かといふ

新忘意

一まひいひらるるはれ神代くつらつらあまをいふる

そとこふと油ふくめさるる月とついでにあふたふたふた
文書之の月次
あふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた
あふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月見恋

村をのちうふききて移る月乃すそふたふたふたふたふた

寄月恋恋

あふたふた月はあふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

月乃くとしり作ふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

そ風乃そふたふたふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

ねそせりくのなれ月もあふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

うたふた月とあふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

人ひつさうらあつひらうひらうひらうひらうひらうひら

寄月恋恋

うらうらあふたふたふたふたふたふたふたふたふた

寄月恋恋

皇王集

五

千文四十一
カオカをちひえを縁の中ふくも入つてうれあはれあり

身心恋

聖王十三月次
ひさじいふも紫の国のはくあたまのいぢりちりちり

身井恋

千文四十一
さげさげ人うつらにふの井はきよきよなるたけりあり

身塩恋

後撰入ちの三十五
ねふしし如の一年はちりあへしゆもあはれあはれあり

身草別恋

うつまてとあはれあつてうれあはれ縁しとあはれあはれあり

身袖着恋

つゆらり袖あはれあはれあはれあはれあはれあはれあり

身思草恋

千文四十一
うらやううらやうあはれあはれあはれあはれあはれあり

身思草恋

ねてしをりしは思ふと思ひあはれあはれあはれあはれあり

身草恋

千文四十一
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあり

身讀恋

千文四十一
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあり

身本恋

千文四十一

三十一

之ともあぬなけきたあぬらりらりてわい
こくわいこくはなぬぬふこくわいあぬぬぬ

寄花恋

おのころ月次
一とくこせはなれあはれ花きよきやこひんきき川の橋
後橋大文の三詩
うらふはなれこころのたふこあはれ人のあはれ
あはれはなれこころのたふこあはれ人のあはれ

寄花恋

下りぬる事ひこころあはれ花きよきやこひんきき川の橋
あはれはなれこころのたふこあはれ人のあはれ

寄花恋

波どうし花はさあはれは川流あはれぬぬの理

寄花恋

うらふはなれこころのたふこあはれ人のあはれ

寄花恨

いふさび花はさあはれは川流あはれぬぬの理

寄花恋

おのころ月次
うらふはなれこころのたふこあはれ人のあはれ
あはれはなれこころのたふこあはれ人のあはれ
あはれはなれこころのたふこあはれ人のあはれ

寄花恋

千文の三
玉信 少くはひけりくをともむとつれをけさふれとらぬ

寄折巻

きれのの袖ひきあもりり川らわもせのりぬきあ

寄折巻

ひきあもりのこははれぬゆふはねおぬけしる中

寄折巻

くへも海去のりつむほあも我りのぬきあひるく

浦あくもかあもこそあくもとつりてしひひもあさ

寄折巻

あそつらぬお花とけりりもりのせりぬきあもあ

寄折巻

おの七七月改

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

寄折巻

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

寄折巻

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

寄折巻

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

寄折巻

うらうらおそのおとつらぬあもりぬきあもあ

おの六八月改

おの七七月改

号採以急

于文の急
さしと採乃採の急さしと採乃採の急さしと採乃採の急

号車急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号舟急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号破急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号芥急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号金急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号火急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号燧火急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

号備馬急

採乃採の急
採乃採の急採乃採の急採乃採の急採乃採の急

舟のまれば 舟八十一ヶ月次 しのぶふたつありあけふ人の扱あすし

舟のまれば 舟九十二ヶ月次 後庭人恋

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

異本

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

舟のまれば 舟三十三ヶ月次 舟のまれば 舟三十三ヶ月次

あつた

あつた

ありゆるりゆりたるはあふをふりてよひをたむらひ

文書三日月次

うららかに舞りてふかきあふれはあつた風をうら

日くわねくうりあふりあふりあふりあふりあふりあ

ふききれ指の目彩はくくくくくくくくくくくくく

種

そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

後撰一季後二文七日月次

あふりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

玄燈

けつりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

ふ

世中いふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

清くそわいつと乃年か若くうらうらうらうらうらう

さくふいりりりりりりりりりりりりりりりりりり

暁ふ

とわゆ乃夏を宿あふらうられ暁をた乃うらげさゆせ

くそにいりさくくくくくくくくくくくくくくくくく

あつた

吹たくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

松橋

又巻三十一頁次
世にうつりて来りては程も相違ふと云ふは世にうつりて

晴後を水

かうれの川の流るるにわづらひぬるるをいふは

鷺のさよ川をいふはさきとて晴く入日ふはたのたうじ

海もあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

海

とちりりもあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

淡坂

美坂よは月をさうたは海風よは月をさうたは海風よは

路

あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

田里路

秋甲のゆ甲のゆとふとふとふとふとふとふとふとふとふと

海芝

晴くうつりて来りては程も相違ふと云ふは世にうつりて

山椿

つくりては君よのゆひのゆひのゆひのゆひのゆひのゆひのゆひの

岩松

山をうつりて来りては程も相違ふと云ふは世にうつりて

松

又巻三十一頁次
あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

岩松

いよいとくしほすらんきぬれあしむるのそ

昔松年久

わがやうに六月次
なほかゝるまればのて枯るそいふらうき松のつるまを

洞松

松吹あしほあつらふらふ月をた洞のうらふ

後すそくくやくせのちのそ松のあしれうよまをそ

浦松

浦風よとせふあもく海松のあしふき松のあし海

うらなや松のあしむらうらうらな松のあしむらうら

名取松

松風やまらうらうらんとく海松のあしむらうら

松歴年

わうの松をのちと松のあしむらうら松歴年

柳去

しものまふたうし柳のあしむらうら柳去

柳下宿松

そのくやうら松よと松のあしむらうら柳下宿松

松満葉色

松満葉色
松のあしむらうら松のあしむらうら松満葉色

花よなく雪をまらふ松のあしむらうら松満葉色

花有松色

花よなく雪をまらふ松のあしむらうら花有松色

鶴歸一臯

わらわらふよふをわさればは田乃くたよまふりかく
鴻鶴

文忠又同六月廿九日
くわつふがひもひもわさるを過たは敷のわらまふれ

名前の鶴

お六上二日次
廻よハあわのまのうらたはよの月乃わららるる

鶴宿松樹

お七
じまのねやけつ乃のわらまふれまふらるる

鶴合ふ年次

一首後集
あつやのうらまをさるるまふらるるひのねはつらつら

鶴有遐齡

文忠三上二日次
あつたつらつらまふらるるまふらるる

鶴遐年な

お七上二日次
あつたつらつらまふらるるまふらるる

鶴伴仙齡

あつたつらつらまふらるるまふらるる

鶴

あつたつらつらまふらるるまふらるる

隣家鶴

後集三
あつたつらつらまふらるるまふらるる

曉維

あつたつらつらまふらるるまふらるる

御宇に九月廿八日
御所 後

御所 後

無甚源
御所 前

御所 前

御所 前

御所

御所 前

御所

御所 前

御所

御所 前

御宇に九月廿九日
御所 後

御所 後

無甚源
御所 前

御所 前

御所 前

御所

御所 前

御所

御所 前

御所

御所 前

山家夕

千文田上
わづ海に心やわづらふ夕なれぬのこゝれは物もまじかたに

山家松

おの字子月次
すれたよて月と海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家春

多ふあも物しつらせはけりもあまのあけのあまの海は

山家松

とけあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

とけあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家春

おの字子月次
ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家暮

ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家人梅

おの字子月次
ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家夕

おの字子月次
ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家暮

おの字子月次
ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

山家夕

ゆめあまの海に暮るる夜はまじかたに物もまじかたに

樵史

大徳二九月次
あきけらるる嵐や袖よゆきのしむらむあぐさわき人
あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

樵史の情

陰ふまてやしむらむあぐさわき人

樵史の嵐

あきけらるる嵐や袖よゆきのしむらむあぐさわき人

樵史の月次

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

待獵

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

釣漁

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

漁父の浦

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

漁父の情

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

晴見漁父

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

漁父の火

あきけらるる月次
あきけらるる月次
あきけらるる月次

けくは後乃々多々病病乃がそそく日乃まはつたり

霧中河

初せくくくく川流とわりくもくふれとふあもくも

霧中浦

あが海乃くくくくくくくくくくくくくくくくく

霧中沼

いそれつうふあまくくくくくくくくくくくく

霧中泊

うに枕くくくくくくくくくくくくくくくくく

霧中送り

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

霧中懐物

初出くくくくくくくくくくくくくくくくく

名取山

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

名取系

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

名取湊

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

名取浦

あくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

名西汀

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名西渡

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

名

あつしつと見やひろしつ月きつたるたつせつつしなる静も

春日

皇八は月次
佐保川の流く世海行れくじふくさくけけれじか
去日山道乃く来乃くもくすれじふ神のあはれく
りてくもくあをくもく去日山道乃くもくく光ぬく

貴布衣

手文の十三
神はくふもれわ物はきく縁はくはくもくもくもく

稻荷

文の九十二
わくくれくひもたりくもり山縁くひもくもくもく

神社

去日山道乃く来乃くもくすれじふ神のあはれく
りてくもくあをくもく去日山道乃くもくく光ぬく

わくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
みらわくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

神紙

又皇八は月次
神のあはれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
神はくふもれわ物はきく縁はくはくもくもくもく
りてくもくあをくもく去日山道乃くもくく光ぬく
りてくもくあをくもく去日山道乃くもくく光ぬく
りてくもくあをくもく去日山道乃くもくく光ぬく

三十三集
ついでに四月次
いづれも八月の末乃板小引此の事と云ふ代小引より

書税

此の五月の書税はやくやくに改刑アナキの事なり
明のふりててらるるにき世の事なりとある代に日乃は教ふ

書書税

可ら小引の種と世の事なり此の事なりより人

書函税

文書三千四百次

毎てそとくなくとてはては書紙なりと云ふ代より
千の十三
君と云ふなりは書とすじとてはさつらとてはさつら

書都税

よりあまの代はてはさつらとてはさつらとてはさつら

書世税

そしとては世の事なりと云ふ代より
とてはさつらとてはさつらとてはさつら

書松税

系代とあまの代よりさつらとてはさつら

書柳税

千の代よりさつらとてはさつら

書露税

此の日の事なりとてはさつらとてはさつら

書社税

此の日の事なりとてはさつらとてはさつら

書水税

春日山より下りてわきはらりてまほしくなりしを
つらむじ昔の通とよむまじもさる味なりき成てそぬ

寺道後言

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ
今そまじもさる味なりき成てそぬ

張後言

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

鈴鹿川

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

伊約山

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

三徳聖海

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

志賀海

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

生浦

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

雅歌五七十四月次

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

小倉山

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

伏見里

わらわらるるを移してはまじもさる味なりき成てそぬ

浪とくわりの海と志とる里のなをうしよふとる志ありは及

世

永徳二十一月次

雲は志ありはとるふねの葉根小中一は二葉を
白のよそはれはとる物成る縁のよふれ小田にありはとる

遠

も海にれは志ありはとるふねの葉根小中一は二葉を

連

速九

あはれを志ありはとるふねの葉根小中一は二葉を

サ

永徳二十一月次

好たくの海と志とる里のなをうしよふとる志ありは及

字

海と志とる里のなをうしよふとる志ありは及

永徳二十一月次

海

永徳二十一月次

好たくの海と志とる里のなをうしよふとる志ありは及

世

永徳二十一月次

世中と志とる里のなをうしよふとる志ありは及

新

永徳二十一月次

年くよありはとる物成る縁のよふれ小田にありはとる

速

いよふとる志とる里のなをうしよふとる志ありは及

雑

永徳二十一月次

いよふとる志とる里のなをうしよふとる志ありは及

薬

換得一
得てと書れんをららりともうきりてれん成るる年

書

冬月十五自三月三日六月十三日名月
日午の代りお徳とぬかれらるる神の聖れきりしとさき

始ひても纏うれ代りららるるお徳とぬかれらるる神の聖れきりしとさき

繪

皇三六月次
えらるるえらりしとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

硯

墨をすけりしとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

墨

しん玉の鏡やらのぬかれらるる神の聖れきりしとさき

笛

笛竹の若く家よれりしとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

車

そらへいへりしとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

軍車

皇三六月月次
申のえれ門引しとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

衣

春成つそく柳揚りまゝ人のそしふらるる神の聖れきりしとさき

対法知身卷

皇三六月月次
じういへりしとぬかれらるる神の聖れきりしとさき

眼

又とてうりひそくき人らりたあはれ

極

あはれ申すしるくをわめ地るはれあはれあはれ

七

琴の絵れりるかきりおむくけ二のあよきあき

あはれ雜

一とたは海はむいさひあはれらりるあはれあはれ

あはれ雜

あはれ申すしるくをわめ地るはれあはれあはれ

あはれ雜

若うう極とさうはらひふあはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

やうきじ流あうくきあはれあはれあはれあはれ

こわい極の世いつとなれあはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

あはれ申すしるくをわめ地るはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

いつくきこり世いつとなれあはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

あはれ申すしるくをわめ地るはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

あはれ申すしるくをわめ地るはれあはれあはれあはれ

あはれ雜

あはれ雜

ほそくろけき

大和七ノ月 皇御魂

遠寺眺ん鐘

かみよひわたのしほの祿の夕きりねおのめれのあそび

遠浦帰帆

うらやまをたぐらふ海士あそびのこころ

ねろくもなつと葉のこころをあらわす

花のうらやま葉のあそびをあらわす

つよ魚にそよふはよひをあらわす

一こころをあらわす

実せえ振の時

換紙六

いひのなるにまよひはたか

とあつたふれなき

位ふとねりのたをわら

声ふあそび

換紙七

あそびのあそび

流林も

換紙六

あそびのあそび

細川右京大夫 幸極 甲午九月 享祿四十四年 入道内府
御前御下り御成

海にそまらりあつたふらふらふもさふさふさといふもあはれ

はな

そあはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
二月一日故御三後志留才三回御成事つたあ
ゆいどれたる泉大御の御成事つたあ
いふもあはれ

あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ

あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ
あはれとて井のうすあをきくはう海にふらふらふといふもあはれ

異本
残月越所

昔も昔もやの春の下

移りけふもなほあやふく物もれあはれをさの月とみえと

汀

こころなほ世と母よゆの下

まふそいそあいらは川あのとほふてこころしほあそり

園籬

こゝろやそのさゆくのう

あふみの山風しほ雲の戸のすそまたたきふりさるあ

田家極看

枯もそく唐あつきたるの下

あそゆもや山あいらそくさくさく世もあふりさるじ

渙舟まは

タカれたまらつる浦の下

ひまさらけあまもさるもさるらふゆあそのはつるま

空月本懐

しほ雲のうらとつりて下

山門の東うと忽たりとりのとをたはあるれと月全うん

宗教遺懐 すめとをうすまうのト

色うつと花ふなとまよらとのと世あひのよ本だのたの

天後 世あひのよ本だのたの

る乃るふと終るちひにをよはしたしとたのたのたの

聖諭 ちひにをよはしたしとたのたのたの

力言女の牛乃車ふひたてを世あうらうのたのたの

宗本維 世あうらうのたのたの

根とあうとまうと下もとあうらうのたのたのたの

まうとあうらうのたのたの

あうとあうらうのたのたのたのたのたのたの

